

# CASBEE® - 建築(既存)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(既存)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_EB\_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	チサンプルミアム京都九条	階数	地上8F地下1F
建設地	京都府京都市南区東九条上御霊町	構造	S造
用途地域	商業地域、準工業地域、防火地域、	平均居住人員	400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	
竣工年	2020年4月 竣工	評価の実施日	-
敷地面積	1,457 m <sup>2</sup>	作成者	-
建築面積	1,092 m <sup>2</sup>	確認日	-
延床面積	6,677 m <sup>2</sup>	確認者	-



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 68%  
 ③上記+②以外の 68%  
 ④上記+ 68%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

##### Q1 室内環境 (Q1のスコア= 3.4)

##### Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 3.2)

##### Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア= 3.6)

#### LR 環境負荷低減性

##### LR1 エネルギー (LR1のスコア= 3.3)

##### LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.5)

##### LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.4)

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b> ・室内環境への十分な配慮を行っている。 ・資源、マテリアルの確保に努めている。	<b>その他</b> ・特に無し。
<b>Q1 室内環境</b> ・騒音レベルの低減に配慮している。・専用部分 室内の複数部分に対して細やかな照明制御が可能。・ホルムアルデヒド濃度 ≤ 50µg/m <sup>3</sup> 。・CO <sub>2</sub> 濃度 ≤ 600ppm、かつ、粉じん濃度 ≤ 0.08mg/m <sup>3</sup> 。	<b>Q2 サービス性能</b> ・宿泊部分 CAT5eを採用。・清掃業務において、チェックシートに基づき、室内環境の汚染前に除去する、予防的清掃方法を採用している。・外壁仕上45ニ丁掛タイル40年・給水管(HIVP)、排水管(VP)、通気管
<b>LR1 エネルギー</b> ・BPI <sub>m</sub> =0.92。・エネルギー消費の内訳をCo <sub>2</sub> マネジメントシステムを使用し、ベンチマーク比較を行い妥当性の確認を行っている。・BEMSを使用した運用管理システムを活用し、エネルギーの検証、診断、運用改善が行われている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水型水栓に加え、省水型機器の採用。・リサイクル材を多用している。・LGS下地、OAフロアを採用。・有害物質を含まない材料の使用4つ以上。・ODP=0のノンフロン断熱材を採用している。
<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> ・外構緑化指数が20%以上。・美観地区および眺望景観保全地域により、周辺のまちなみに調和されている。・管理者がエネルギー削減について提案し、スタッフが実施及び清掃活動を行っている。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・LCCO <sub>2</sub> 排出率=68%。・レンタルサイクルを設置。・ゴミの種類別に回収容器・ラックを設置し、分類別POPを掲示している。・光害の抑制について、フェックリスト、配慮事項の過半を満たしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される